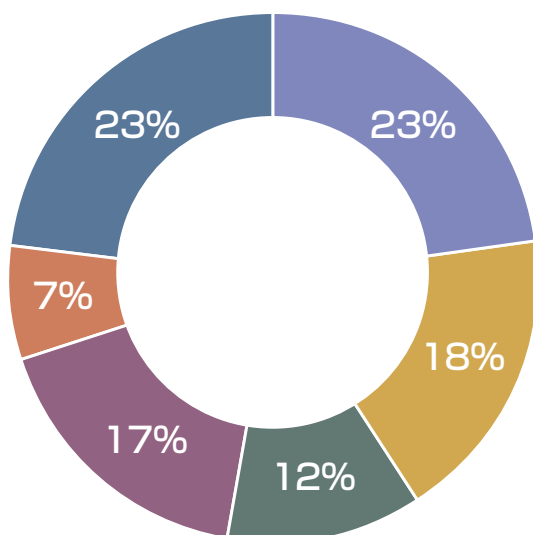


事業本部別営業純益 5,705 億円^{*1*2}

法人・リテール事業本部 (R&C)	1,457 億円
コーポレートバンキング事業本部 (JCIB)	1,156 億円
グローバル CIB 事業本部 (GCIB)	772 億円
グローバルコマーシャルバンキング事業本部 (GCB)	1,043 億円
受託財産事業本部 (受財)	438 億円
市場事業本部 (市場)	1,452 億円

注記 MUAHはMUFG Americas Holdings Corporationの略

KSはクルンシィ (アユタヤ銀行)の略

*1 6事業本部の営業純益合計に加え、本部・その他の計数を含む

*2 以下の事業本部間協働収益を除く

R&C : JCIBのオーナー収益、海外日系収益

JCIB : R&Cのオーナー収益、GCBに帰属するMUAHとKSの日系企業収益

GCIB : GCBに帰属するKSの非日系大企業収益、JCIBの本邦外資系企業収益、市場とのジョイントベンチャー収益

GCB : その他の事業本部に帰属するMUAHとKSの収益

市場 : GCIBとのジョイントベンチャー収益

法人・リテール事業本部

個人や中堅・中小企業のお客さまへの住宅ローン・貸出・資産運用・決済といったサービスの提供、事業・資産承継といったソリューション提案などを通して、お客さまの多様なニーズにお応えしています。



主な事業会社と事業内容

- 三菱UFJ銀行は、個人のお客さま向けに、預金、貸出、住宅ローン、運用商品の販売からバンクイック（コンシューマーファイナンス）まであらゆる金融サービスを提供しています。また、中堅・中小企業のお客さまへ貸出や決済など商業銀行サービスに加え、グループ企業と連携したさまざまなサービスを提供しています。
- 三菱UFJ信託銀行は、相続、贈与、不動産、年金、投資運用など、信託銀行ならではのサービスを提供しています。
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券は運用商品や債券・株式の販売などを行う他、モルガン・スタンレーとの戦略的提携も活用しながら、債券や株式の引受からM&Aアドバイザリーなどのサービスを提供しています。また、カブドットコム証券はネット証券として利便性の高いサービスを提供しています。
- 三菱UFJニコスはクレジットカード、アコムはコンシューマーファイナンス（カードローン）ビジネスを展開しています。
- 上記のほか、コンサルティングサービスにより多様な経営課題に応える三菱UFJリサーチ&コンサルティングや、創業間もないお客さまの資金調達を支援する三菱UFJキャピタルなど多彩な事業会社がMUFGの総合力を支えています。

中長期的にめざす姿

■「持続的に、お客さま・社会とともに成長する本邦随一のリテール&コマーシャルバンク」

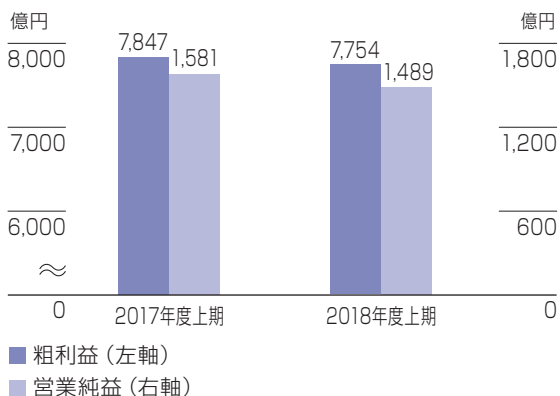
グループ会社や法人・リテールを跨ぐMUFGの観点で、多種多様なお客さまのニーズに確りとお応えし、あらゆるソリューションをシームレスに提供するために、法人・リテールの運営を一体化しました。

MUFG各社の専門性をさらに高めることで、お客さまの期待を超える「真の価値」を提供し、お客さま・社会とともに成長し続けていきます。

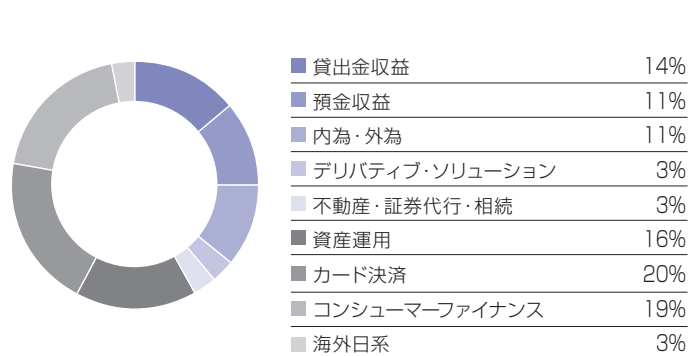
2018年度上期の業績^{*1}

カード決済やコンシューマーファイナンスの業容拡大に加え、米国金利上昇に伴って外貨預金収益が増加した一方、市況悪化に伴い運用ビジネスは苦戦し、粗利益・営業純益ともに前年同期比で減益となりました。

粗利益／営業純益



2018年度上期粗利益の構成^{*2}



^{*1} 管理計数。現地通貨ベース。粗利益、営業純益にはJCIBのオーナー収益、海外日系収益を含む
^{*2} その他業務等を除く

コーポレートバンキング事業本部

貸出や決済、外国為替などのサービス提供や、M&Aや不動産など、グループ各社の専門性を活かしたソリューション提案などを通じて、グローバル化が進む日系大企業のお客さまの企業価値向上に貢献します。



主な事業会社と事業内容

- 三菱UFJ銀行は、法人ビジネスの中核銀行として、日系大企業のお客さまに貸出や決済など商業銀行サービスに加え、グループ企業と連携したさまざまなサービスを提供しています。
- 三菱UFJ信託銀行は、不動産、年金、投資運用など、信託銀行ならではのサービスを提供しています。
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券は、モルガン・スタンレーとの戦略的提携も活用しながら、債券や株式の引受からM&Aアドバイザーなどのサービスを提供しています。
- 三菱UFJリースは、リースを活用したファイナンススキームを提供しています。
- 三菱UFJファクターは、お客さまの商流を金融面から支えるファクタリングサービスを提供しています。
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティングは、コンサルティングサービスにより多様な経営課題にお応えしています。

中長期的にめざす姿

■「お客さまにビジネスパートナーとして最も信頼される金融グループ」へ

機能別再編を通じた新たな「RM^{*1}-PO^{*2}モデル」の構築や、業界ごとに異なる環境を踏まえ、お客さまの経営課題解決に向けたソリューションを提供する「セクター戦略」の強化により、付加価値を向上させ、お客さまの「First Call Business Partner」をめざします。こうした取り組みを通じて、国内外産業の競争力強化に貢献するとともに、当社の持続的な成長をめざします。

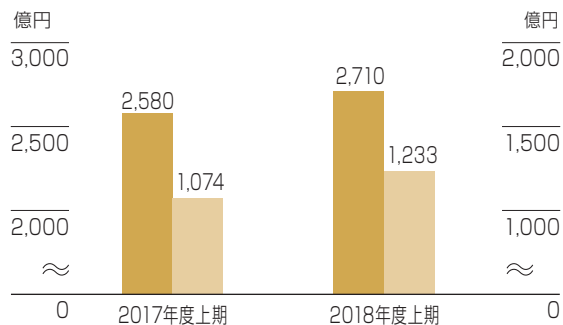
*1 Relationship Managerの略、営業担当者

*2 Product Officeの略、商品やサービスの企画・開発・提供を担う部署および担当者

2018年度上期の業績^{*1}

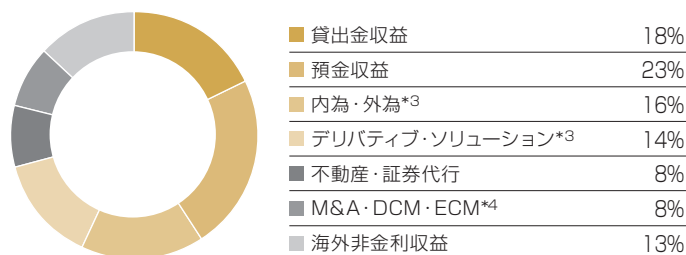
外貨貸出利ざやの改善、外貨預金の獲得や米国金利上昇により外貨預貸金収益が堅調に推移。大口案件の獲得によりM&A等の証券関連収益も好調であり、粗利益・営業純益ともに前年同期比増益となりました。

粗利益／営業純益



■ 粗利益 (左軸)
■ 営業純益 (右軸)

2018年度上期粗利益の構成^{*2}



*1 管理計数。現地通貨ベース。粗利益、営業純益にはR&Cのオーナー収益、GCBに帰属するMUAHとKSの日系企業収益を含む

*2 その他業務等を除く

*3 国内分のみ。海外分は海外非金利収益に含む

*4 他に不動産証券化等を含む

グローバルCIB事業本部

世界各国でグローバル大企業のお客さまの資金調達ニーズにお応えするほか、トランザクションバンキング、各種アドバイザリー業務を行っています。



主な事業会社と事業内容

- 三菱UFJ銀行は世界50以上の国で商業銀行サービスを展開。海外ネットワークを活用し、世界各地域でお客さまの多様なニーズにお応えしています。
- 三菱UFJ証券ホールディングスは、米国・ロンドン・シンガポール・香港など世界の主要都市に海外ネットワークを持ち、証券業務を展開しています。

中長期的にめざす姿

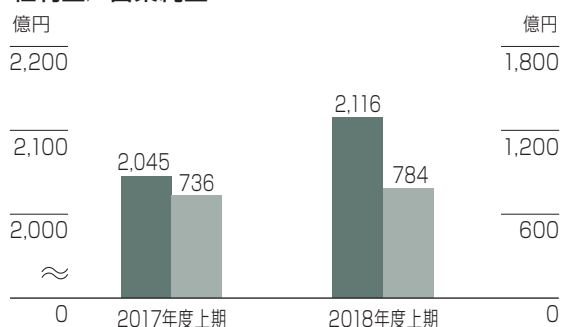
■「グローバルにトップクラスのデットハウス」

MUFGが培ってきた顧客基盤の強みを最大限に活かし、グローバルにトップクラスのデットハウスとして、お客さまの資金需要に総合的に応えることをめざします。また、お客さまの高度化・多様化するニーズにMUFG一丸となってお応えすべく、グループ会社・事業本部・地域を越えて、お客さま軸での一体運営を強化します。その変革を支える取り組みとして、国内外で標準化された評価制度の導入、組織体制のグローバル化などを実施します。

2018年度上期の業績^{*1}

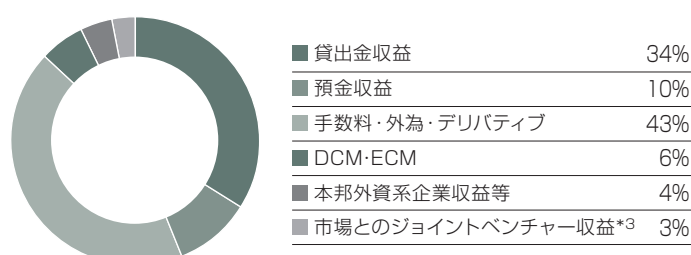
取引採算の改善に加え、米州・オセアニア地域での複数のイベントファイナンス成約などによる手数料収益の積み上げに伴い、粗利益・営業純益ともに前年同期比増益となりました。

粗利益／営業純益



■ 粗利益 (左軸)
■ 営業純益 (右軸)

2018年度上期粗利益の構成^{*2}



^{*1} 管理計数。現地通貨ベース。粗利益、営業純益にはGCBに帰属するKSの非日系大企業収益、JCIBの本邦外資系企業収益、市場とのジョイントベンチャー収益を含む

^{*2} その他業務等を除く

^{*3} 市場とのO&D等の協働収益

グローバルコマーシャルバンキング事業本部

既存の出資先であるMUFGユニオンバンクやクルンシィ（アユタヤ銀行）等^{*1}を通じて、海外地場の中小法人・個人向けに金融サービスを提供しています。

^{*1} 当事業本部は、MUFGユニオンバンク、クルンシィ（アユタヤ銀行）、バンクダナモン、セキリティバンク、ヴィエティンバンク、等を所管します



主な事業会社と事業内容

- MUFGユニオンバンクは米国、クルンシィ（アユタヤ銀行）はタイ、バンクダナモンはインドネシア、セキリティバンクはフィリピン、ヴィエティンバンクはベトナムで、現地企業向けビジネスやリテールビジネスを行っています。

中長期的にめざす姿

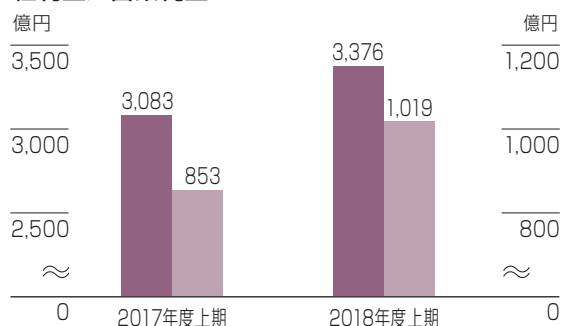
■「アジア太平洋を跨いだ事業運営を通じて、パートナーバンクー丸となって成長する事業本部」

Banking Across the Pacific Rim – Connect, Synergize, and Grow Together、すなわち、アジア太平洋を跨いで業務を運営することで、三菱UFJ銀行を含むパートナーバンク間のシナジーを生み出し、ともに成長する事業本部をめざします。グローバル展開するMUFGと、地域に密着して運営するパートナーバンクとの連携により生まれるネットワークは、世界でも類を見ない、独自の強みです。こうしたネットワークをさらに活かして、お客さまへ高度なソリューションを提供していきます。

2018年度上期の業績^{*1}

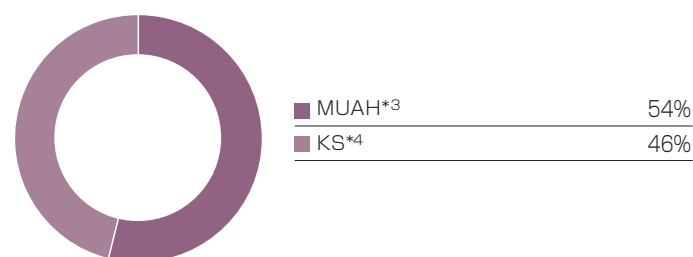
米国金利上昇に伴い預貸金収益が増加、タイではオートローン等の貸出残高の積み上げにより金利収益が増加し、粗利益・営業純益ともに前年同期比増益となりました。

粗利益／営業純益



■ 粗利益 (左軸)
■ 営業純益 (右軸)

2018年度上期粗利益の構成^{*2}



^{*1} 管理計数。現地通貨ベース。MUAH・KSの計数にはGCB帰属分のみを含み、その他の事業本部に帰属する分を除く

^{*2} その他業務等を除く

^{*3} 信託・証券子会社、GCIB、市場に帰属する分を除く

^{*4} 会計基準差異調整後。市場に帰属する分を除く

受託財産事業本部

資産運用、資産管理、年金の各分野において、高度かつ専門的なノウハウを活用したコンサルティングや、運用力・商品開発力の向上に取り組み、国内外のお客さまの多様なニーズにお応えしています。



主な事業会社と事業内容

- 三菱UFJ信託銀行は、日本トップクラスの資産運用機関として国内外の機関投資家や個人のお客さまに各種運用商品を提供しているほか、子会社の日本マスタートラスト信託銀行とともに、海外市場への投資機会の拡大などを通じて高度化・多様化する資産管理ニーズにお応えしています。企業年金分野では、年金制度設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しています。グローバルな競争力強化をめざして海外の運用会社との資本・業務提携も進めています。
- 三菱UFJ国際投信は、これまで培ってきた商品開発力と運用力、お客さまへのサポート力を結集し、顧客のニーズや利益に合う商品の提供を行うことで、お客さまの中長期的な資産形成に貢献しています。
- 三菱UFJファンドサービスは、「MUFGインベスターサービス」ブランドのもと、グローバルな運用機関に対して、各種資産管理サービスをワンストップで提供するなど、お客さまの多様化するニーズにお応えしています。

中長期的にめざす姿

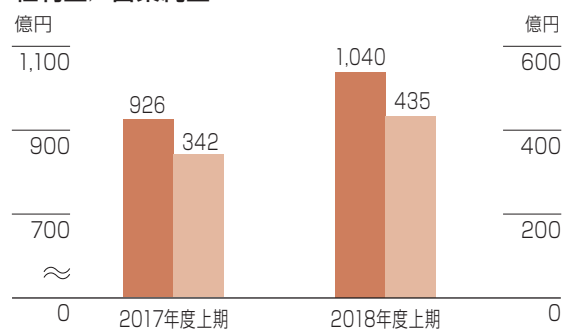
■「国内で圧倒的No.1、グローバルにも存在感のある資産運用・資産管理機関」

資産運用においては高い運用力と総合的なソリューション提案力を有し、国内における「貯蓄から資産形成へ」の推進においても評価される存在をめざします。資産管理ではバンキングサービス等の付加価値サービスの拡充により国内外のお客さまから選ばれる存在をめざします。年金では総合コンサルティングを通じて確定給付年金/確定拠出年金の双方で国内トップの地位を確立していきます。

2018年度上期の業績^{*1}

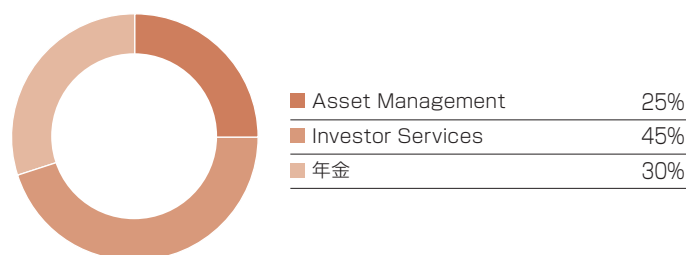
国内外の資産管理残高、国内法人投資家向け運用商品販売の積み上げにより、粗利益・営業純益ともに前年同期比増益となりました。

粗利益／営業純益



■ 粗利益 (左軸)
■ 営業純益 (右軸)

2018年度上期粗利益の構成



^{*1} 管理計数。現地通貨ベース

市場事業本部

金利／債券・為替・株式のセールス&トレーディング業務を中心とする顧客ビジネスやトレジャリー業務^{*1}を主に担っています。

^{*1} 貸出などの資産と預金などの負債に内在する資金流動性リスクや金利リスクなどを総合的に管理するALM運営やグローバル投資など



主な事業会社と事業内容

- 三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券ホールディングスは、東京、欧州（ロンドンほか）、米州（ニューヨークほか）、アジア・オセアニア（香港・シンガポールほか）などに市場業務拠点を有し、グローバルにビジネスを展開しています。
- 三菱UFJ銀行、三菱UFJ証券ホールディングスの、ロンドン、ニューヨーク、香港の各拠点では、顧客ビジネスの領域で市場業務拠点を統合して運営しています。
- MUFGユニオンバンク、クルンシィ（アユタヤ銀行）、三菱UFJ銀行の中国現地法人も、それぞれ市場業務を行っています。

中長期的にめざす姿

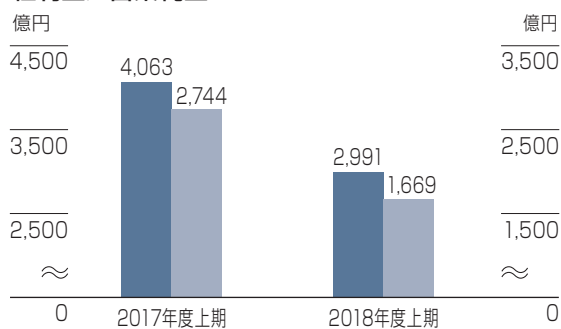
■「グループ一体で全社ビジネスの変革を推進」

事業本部やグループ会社の垣根を越えて、グループ体的にお客さまに付加価値を提供する組織をめざします。お客さまにとって最適なブッキングエンティティでのお取引機会を提供できるよう、銀行・信託銀行・証券の各社のインフラ（システム・リスク管理等）の共通化に向けた取り組みを開始します。また、一部の海外拠点では、銀行と証券の従業員の兼職を実現しました。

2018年度上期の業績^{*1}

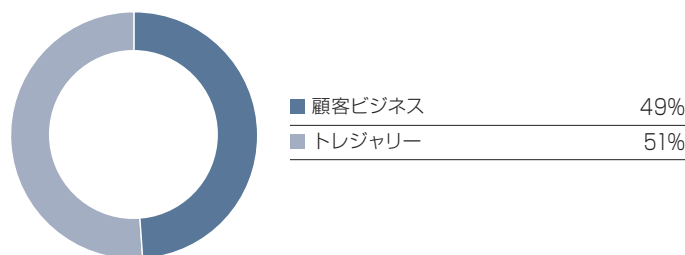
前年度の円債売却益の反動によりトレジャリー収益が減少し、粗利益・営業純益ともに前年同期比で減益となりました。

粗利益／営業純益



■ 粗利益 (左軸)
■ 営業純益 (右軸)

2018年度上期粗利益の構成^{*2}



^{*1} 管理計数。現地通貨ベース。粗利益、営業純益にはGCIBとのジョイントベンチャー収益を含む

^{*2} その他業務等を除く

中小企業のお客さまの成長・地域活性化への貢献

MUFGは、日本経済再生へ向けて金融面から貢献するため、中小企業のお客さまの経営課題の解決に向けさまざまなサービスを提供するとともに、地域の活性化に向けた支援を行っています。

中小企業のお客さまの成長への貢献

MUFGは、全国に展開する法人営業拠点を中心に、企業のビジネスステージ（成長段階）に応じて、さまざまなサービスを行っています。

創業期

■ 今後の成長が期待されるビジネスをサポート

「Rise Up Festa」とはMUFGのネットワークや経営支援などの豊富なノウハウを活かし、新規性・独創性を有する事業や既存の事業領域を超えて新たな事業に取り組んでいる成長企業を中長期的なビジネスパートナーとして支援していくプログラムです。2018年4月には、第5回の最終審査会が開催され、最優秀企業4社、優秀企業6社を決定しました。受賞企業には、成長実現に向けたサポートを行っています。



「第5回 Rise Up Festa」表彰式

成長期

■ 円滑な事業資金の供給と新たなビジネス機会の創出

MUFGでは、お客さまの事業拡大などを支援する大規模商談会「Business Link 商賈繁盛」を定期的に開催しています。調達や販売先の拡大やマーケティングや物流の高度化などさまざまな課題をお持ちのお客さまに、MUFGの幅広いネットワークを活用してビジネスパートナーを紹介するイベントです。2018年2月には大阪で開催。海外の投資誘致機関やMUFGユニオンバンク、クルンシィも参加しました。



「第15回 Business Link 商賈繁盛 (INTEX OSAKA)」の商談風景

成熟期

■ 円滑な事業承継に向けたサポート

オーナー企業の円滑な事業承継を支援するため、MUFGでは、専門の担当者が、お客さまの事業承継に関するさまざまなアドバイスをを行っています。

事業再生

MUFGは、専門部署による集中サポートや外部機関との連携など、さまざまなサポートを行っています。

地域経済の活性化への貢献

MUFGは、行政機関や地域金融機関との連携を通じて、地域経済の活性化や地域産業の育成につながる事業を支援しています。

■ 事例紹介1 MUFGとALL-JAPAN観光立国ファンド協働第一号案件

三菱UFJ銀行は2018年2月、観光の活性化や地域創生に向けた取り組みを推進し、わが国の産業・経済の発展に貢献することを目的とした投資ファンド運営会社「地域創生ソリューション株式会社」を8社共同出資により設立し、同年4月に「ALL-JAPAN観光立国ファンド」を組成しました。今般、三菱UFJ銀行と三菱UFJリースは、その協働第一号案件として、2020年竣工予定である「ホテルWBFグランデ関西エアポート」の開発支援を実施しました。

関西国際空港では、国際線を中心に新規就航や増便が計画されており、外国人来訪者はさらに増加する見込みです。同ホテルは、関西国際空港エリア周辺で最大規模となる予定で、日本への外国人観光客誘致に貢献することが期待されています。

■ 事例紹介2 地方公共団体フォーラムを開催

2018年夏、三菱UFJ銀行は地方公共団体フォーラムを開催しました。大阪では「行政サービスにおけるAI等新技術の活用について」、名古屋では「インフラがもたらす経済成長・地方創生」をテーマに外部有識者による講演、パネルディスカッション、情報交換会などを行いました。大阪では53団体/約150名、名古屋では51団体/161名が来場し、参加者からは「タイムリーな課題を取り上げてもらい、役に立った。AI等の活用が重要であることを改めて認識できた」「インフラ整備がもたらす重要性を理解することができた」などの声が寄せられました。



